

# 矛盾

矛盾とは、あることを一方では肯定し、同時に他方では否定するなど論理の辻褃が合わないこと。物事の筋道や道理が合わないこと。



## この一瞬の出来事から世の中が変わった

平成 23 年 3 月 11 日 14 時 46 分 18 秒、宮城県牡鹿半島の東南東沖 130km の海底を震源として発生した東北地方太平洋沖地震は、日本における観測史上最大の規模、マグニチュード (Mw) 9.0 を記録し、震源域は岩手県沖から茨城県沖までの南北約 500km、東西約 200km の広範囲に及んだ。この地震により、場所によっては波高 10m 以上、最大遡上高 40.5m にも上る大津波が発生し、東北地方と関東地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらした。

インターネットのYouTubeで、東日本大震災の被災地の様子の写真を映し出しながら流れてくる「人間失格」Metis(作詞作曲)の歌が悲しく心を打ちます。

人間失格 ～生きる事は素晴らしいのです～(歌詞を抜粋)



もう帰らぬ日の青春 何より自分が大切だった  
苦しむ友を救う事さえできなかった  
人間失格



後悔していませんか？ 夢を忘れていませんか？ 道はずれていませんか？  
下を向いていませんか？ 家族大事にしていますか？ ありがとうと言っていますか？  
今誰を愛していますか？ 大切な人涙してませんか？



楽に生きようとしてませんか？ もう人間やめますか？ 人生放棄するのですか？  
生きる事は素晴らしいのです 君を今必要としています 故郷を覚えていますか？



**行方不明者の家族は毎日、津波で流された位置を推測して搜索活動を行う。  
複数の避難所と遺体安置所を回って安否確認をする。  
こんな悲しい光景を二度と起こさないで欲しい。**

悲惨な情景を見ながら、同じ悲しみを二度と味わわないために考えています。

お願いですから県立淡路病院建設を今すぐにでも中止して下さい。

過去にも津波に襲われたことが歴史に残っています。

再び悲しむ人が出ないように、人形会館の建設を止めて下さい。

涙する人がひとりでも出ないように祈るだけです。

## 迫る巨大地震

### 最悪のシナリオ(日経サイエンス 2012年2月号より)

東日本大震災のとき、地震学の常識を覆す場所で断層が動き、津波が大きくなったことがわかった。震源域は海底下 10km より深い場所だと考えられていたが、海底直下まで震源域となっていた。東海地震と東南海地震、南海地震が連動する巨大地震の際も、こうした海底下の浅い震源域が動き、想定外の大津波になる恐れがある。実際、過去にそうした場所が震源域となった地震があったこともわかった。

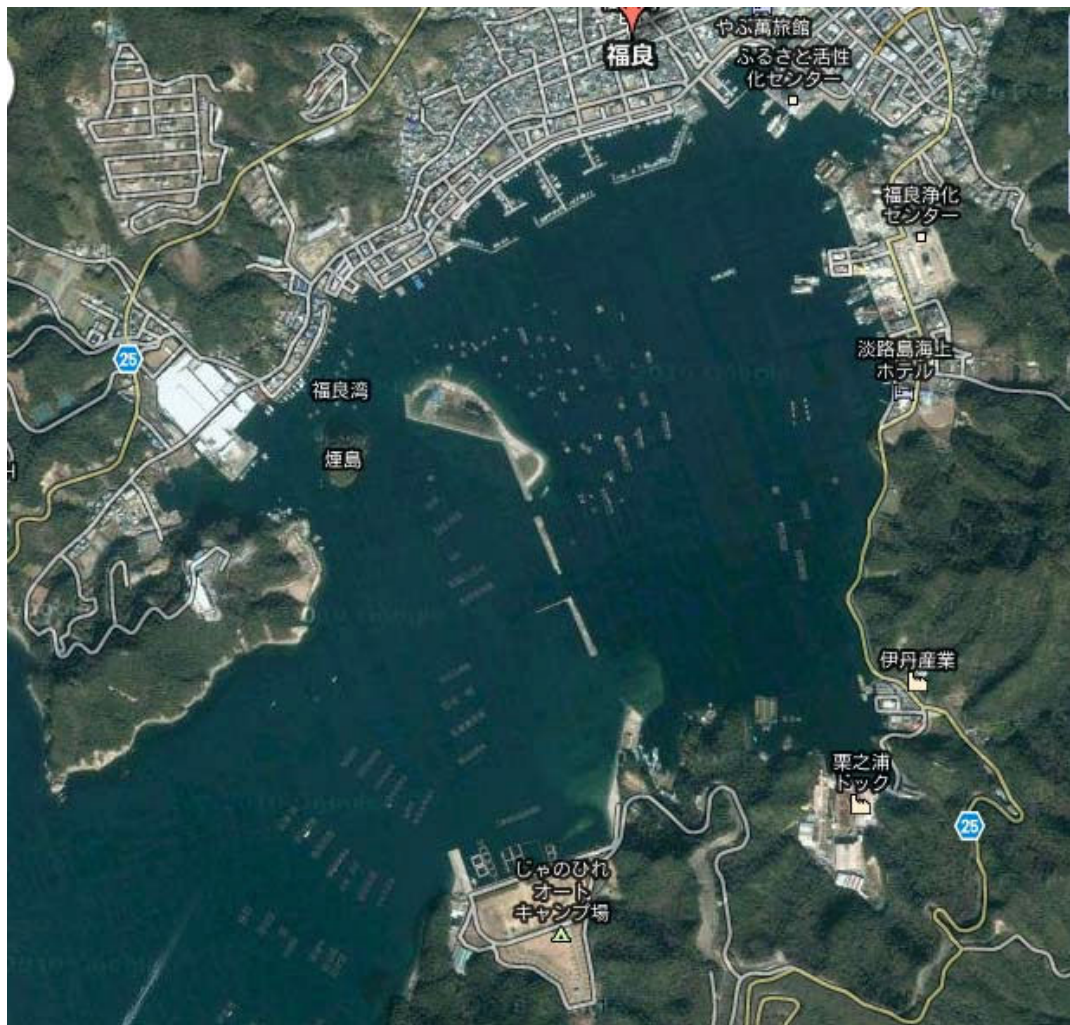
そうした巨大地震の際、どんな津波が沿岸各地を襲うのか、東大地震研の古村教授らはコンピューターシミュレーションで再現した。その結果、津波の高さは宝永地震、つまり政府が想定している南海トラフにおける最大の地震の場合の 1.5~2 倍になることがわかった。過去の例に照らすと、そうした巨大地震が起きると、富士山が大噴火する可能性がある。約 300 年前の江戸時代にそうしたことが起こり、関東でも別の巨大地震が発生した。もし現代に同じことが起きれば、日本は東日本大震災をはるかに上回るダメージを受けることになる。

(著者)

中島林彦: 日経サイエンス編集部。

古村孝志: 東京大学地震研究所教授 (災害科学系研究部門)。

小山真人: 静岡大学防災総合センター副センター長。



福良湾上空から

平成 23 年 7 月 1 日に県庁まで行き「県立淡路病院の建設を中止し、安全な高台への建設を要求する」要求書を提出してきました。

そのときに回答をいただく中で、疑問が出てきたので公開質問状を提出致しました。

## 公開質問状

兵庫県知事 井戸敏三様

平成 23 年 10 月 11 日

洲本市政を考える会

代表 小道雅之

市民にやさしい淡路市政をつくる会

代表 松原幸作

市政を市民に取り戻す会

代表 前嶋一博

公開質問状の返事を 10 月末までとしておりましたが、ひと月遅れて、兵庫県病院局長岡本周治氏より、11 月中ごろに回答をいただきました。

### 1. なぜ住民説明会を行わないのですか？

尼崎病院と塚口病院に関しては、両病院の統合再編を行うということで、診療機能の大幅な改編が伴うだけでなく、病院の数が 1 つ減少する形になることから、地域医療に与える影響の大きさを踏まえ、従来の病院整備の際にはなかった異例な対応として、住民説明会を開催し理解を求めたものです。

一方、淡路病院の建替整備に関しては、診療機能に大幅な変更を伴うものではないことから、今後、進捗状況や防災対策等について地域住民の方々に理解を深めていただくため、効果的な発信となるよう工夫しながら、十分な情報提供に努めていきたいと考えています。

なお、質問の中に、「病院局長は建築予定地に新しい県病を建てると 1 階部分が浸水する可能性がある」と発言した旨の記載がありますが、これは、平成 23 年 7 月 1 日に、約 1 時間半にわたり兵庫県庁内でお話ししたときの発言を引用されているものと思われませんが、現在想定している安政南海地震く M8.4)規模を 想定した過去最大級の津波で浸水すると断言したわけではなく、「仮に過去最大級の津波の高さを暫定的な取り扱いとして 2 倍に想定した場合には浸水の可能性は否定できない」旨の説明を行ったものです。

**それならば、住民説明会をするべきです。  
何故、住民説明会をしないのかの答えになっていません。**

## 2. 液状化の心配はないと言うが、その根拠が示されていません。

建設地周辺を含めて阪神・淡路大震災の際にも液状化は発生していないことに加え、新病院の建設工事においては、念には念を入れて地盤を強固にする工事を実施していることから、液状化が発生する可能性はまずないであろうと考えていますが、万が一、ライフラインに影響が出た場合も想定し、対策を講じることとしています。具体的には、自家発電や受水槽を2階、3階に整備したうえで燃料や水を備蓄し、最低3日間は稼働できるようにしており、その間に、燃料、電源車、給水車を手配 できますので、必要な医療を継続して提供することは可能と考えています。

なお、質問状に「病院局長の発言」として建設予定地及びその周辺の様子 に言及したかのような記載がなされていますが、正確な発言の内容は、公開質問状のこの項目の1行目の記述のとおり、「建設予定地は埋め立て地ではないことから、液状化は起こることはないと考えている」というものです。

## 私たちが聞きたいのは、液状化の心配があるのか？ないのか？

## 3. 災害時に、災害拠点病院としての役割が果たせなくなります。

10月24日に兵庫県が発表した「津波被害警戒区域図」においては、過去最大級の津波を2倍にした津波高は、洲本市では最高で3.45m(2.54m～3.455m)とされており、病院局が当初想定していた高さより10cm低くなっています。

また、同時に配布された参考資料「本県における津波の特徴」において、本県における津波は、幅の狭い紀淡海峡や鳴門海峡を通過する際にエネルギーが減衰し、外洋に面する地城より津波高が低くなることや、防潮堤の前面水深が港湾のような深い所では海水面が徐々に上昇することから、防潮堤への衝撃力は小さいことが示されています。

そのため、建設地周辺地域では、仮に過去最大級の2倍の高さの津波が襲来したとしても、既存の2.95mの防潮堤を若干越流する程度に止まるとともに、津波の衝撃力は小さいことから、浸水は早期に解消すると見込まれることから、来院や患者搬送に大きな支障が生じることはないであろうと考えています。

しかしながら、浸水が一定期間に及んだ場合に備え、地元消防部局と協議のうえ、重要患者のヘリコプターでの受け入れなど、適切な患者搬送体制を整備するとともに、災害時における島内の民間病院や他の災害拠点病院等との連携について検討を進めていきます。

なお、県内の他の病院では、組み立て式のモーターボートを配備しているところもあることから、そういったことも参考に、万一の場合に備え、今後、必要な対策を検討していきたいと考えています。

## 災害拠点病院としてその役割が果たせるのか？

#### 4. 「県立淡路病院建替整備検討懇話会」の選定理由が納得できません。

新病院建設地は、安政南海地震(M8.4)規模を想定した百年に一度程度の過去最大級の津波は既存の防潮堤で防ぐことができることや、兵庫県 CG ハザードマップにおいて洪水や高潮での浸水被害が生じない地域とされていることなどから、懇話会においては大規模災害時の危険性が少ない場所とされました。

実際に、平成 16 年の台風 23 号により洲本市が大きな被害に見舞われた際に浸水しなかっただけでなく、その時の総雨量を上回る雨が降り、神戸淡路自動車道が通行止めになった本年 9 月の台風 15 号においても、水害は発生しませんでした。

そのほか、委員からは、災害時に陸上ルートを使えなくなった場合には、海上ルートが使用できることが非常に有利な点であるという意見もありました。

また、懇話会では、耐震基準を満たしていない現病院は一刻も早く建替整備を行う必要があることや、平常時と緊急時の両面から考えて、普段はどのような場所が、島民、市民にとって一番便利なのかということも視野に入れて検討すべきさという意見がありました。

それらの意見を総合的に勘案した結果、複数の候補地の中から、他の候補地に比べて土地取得や用地造成が容易で早期整備が可能だけでなく、淡路島内の交通の要衝となっており、各地域からの時間・距離の中心である現建設地が選定されました。

現在の淡路病院は、1 日あたり 800 人近くの外来患者が訪れますが、その半数以上が高齢の方であることから、高台へ移転すると日常の通院が大変となりますので、島内全域からバス路線が集積している交通の利便性の高い現建設地において、必要な災害対策を取りながら整備を進めていきたいと考えています。

**病院建替整備検討懇話会の選定理由は、東日本が起こる 3 月 11 日以前の選定理由であり、4 連動地震が起こるとされた中央防災会議最終報告以後の選定理由とはいえ、いまだにそれを根拠にしているのがおかしい。**

#### 5. 中央防災会議最終報告をどう受け止めるのか、見解を聞かせてください。

新病院の建設地は、県立淡路病院建替整備検討懇話会による検討結果のとおり、地震や大雨などの影響が少ない場所です。

また、将来発生が予想されている東南海・南海地震に伴う本県における津波の影響については、幅の狭い紀淡海峡や鳴門海峡を通過する際にエネルギーが減衰し、外洋に面する地域より津波高が低くなること、防潮堤の前面水深が港湾のような深い所では海水面が徐々に上昇していき、防潮堤への衝撃力も小さいこと、地震の震源地との位置関係などから、新病院の建設地は、東日本大震災の被災地のような、津波の威力を直接受けるような状況にはないと見込まれます。

しかしながら、想定外の事態も想定しておく必要がありますので、万が一、防潮堤を越えて浸水した場合に、病院の 1 階部分への浸水を防ぐため、病院建物の外壁沿いに浸水防止壁設置することとしています。

今後、国の防災基本計画や県の地域防災計画の見直しにより、周辺地域の浸水被害等の想定について見直しが行われ、新たな対策の必要が生じた場合には、関係機関と協議しながら適切に対応します。

新病院の建設地は海から 50m しか離れておらず、その周辺は埋立地です。

中央防災会議の最終報告では、あらゆる可能性を考慮に入れた最大級の地震と津波を想定すべきだ」と指摘し、「病院などを浸水リスクの少ない場所に建設することを求めています。

**納得する説明になっていない！**



**平成 23 年 3 月 11 日、東日本大震災が起きた時点で、これまでの兵庫県全体の防災計画や公共建造物を見直すべきだった。**



## 中央防災会議：国の防災基本計画を改定 津波対策を新設 (毎日新聞社 12月28日より)

政府は27日、中央防災会議（会長・野田佳彦首相）を開催し、国の防災基本計画を改定した。東日本大震災の教訓を踏まえた改定。「津波災害対策編」を新設したほか、事前の対策で被害の最小化を目指す「減災」の考え方を基本方針に据えるなど、全16編にわたって大幅に修正した。これを受け、自治体の地域防災計画や省庁などの防災業務計画も改定が必要になり、防災対策は一新される。

防災基本計画に新たな対策編が設けられるのは、原子力災害対策や雪害対策など9編が追加された97年以来で14年ぶり。津波対策は「震災対策編」の1項目に過ぎなかったが、同編を揺れの対策に特化した「地震災害対策編」と「津波災害対策編」に分け、2ページだった津波に関する記述を約60ページに増やした。

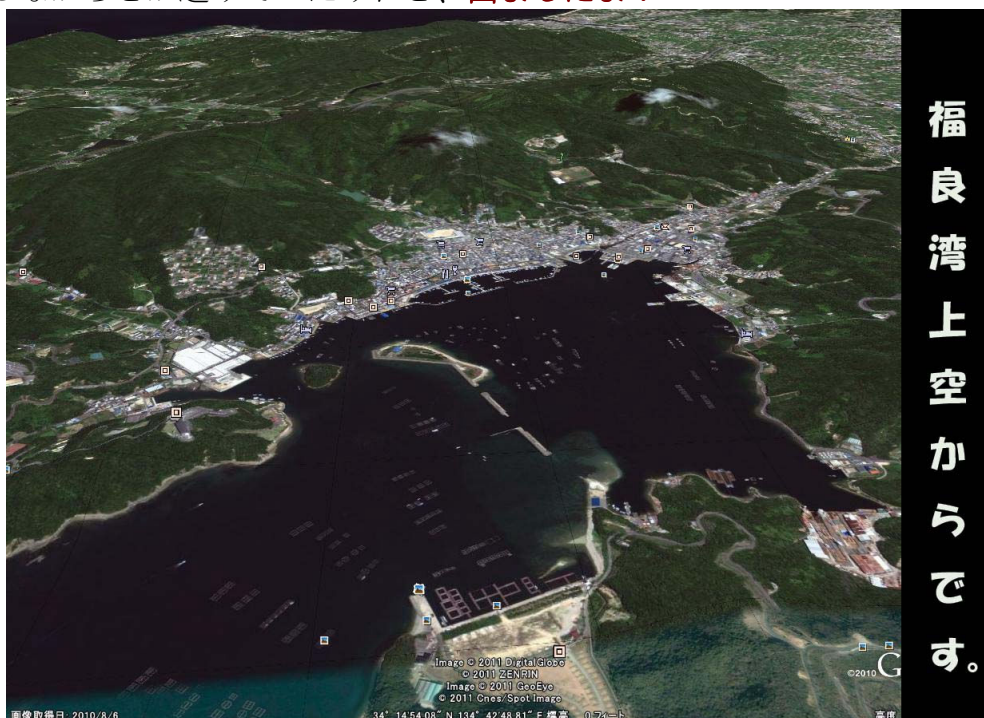
津波災害対策編では、地震発生から短時間で津波の到達が予想される地域について、約5分で住民が避難できるまちづくりをするよう明記。公共機関や避難場所は浸水する危険性の低い場所へ整備することや、携帯電話やワンセグなどを用いた情報伝達手段の多様化なども求めた。

計画全体の総則では「災害を完全に防ぐことは不可能だが、さまざまな対策を組み合わせ備えなければならない」と、「減災」の基本方針を示した。

==あと略==

中央防災会議というのは、内閣の重要政策に関する会議の一つとして、内閣総理大臣をはじめとする全閣僚、指定公共機関の代表者及び学識経験者により構成されており、防災基本計画の作成や、防災に関する重要事項の審議等を行っています。

大学の先生など高給の役人が寄って防災に関して審議するというのですが、それは確かに重要な研究成果を発表したことだと思いますが、それを守らせるという拘束力はありません。兵庫県は、県立淡路病院の移設建設中であるし、南あわじ市も人形会館を建設中で、市民団体が津波の恐れがあるから中止して欲しいと要望をしても、中央防災会議の関係機関と協議しながらとか逃げていたけれど、**出ましたよ！**



井戸知事は6月20日の記者会見で「津波高の想定が2倍になったからといって、淡路病院が全部浸水するわけではありません。高台に移すという考えはありません。市街地に病院を建てて、市街地のにぎわいの一助にしようとする意図もある。」とおっしゃっていました。

津波が2倍になるということは、東日本大震災と同等の地震が生じることを意味しております。この地域は、東日本大震災では大津波警報が発令されただけでなく、その後避難勧告が出された地域でもあります。

県立淡路病院は淡路島で唯一の防災拠点病院ですが、その役割が果たせないのはあきらまかです。

人命をおろそかにするような地域において本当の町の活性化などができるものでしょうか？

県立淡路病院は淡路島唯一の防災拠点病院であり、洲本市街地だけではなく洲本市五色、南あわじ市、淡路市の住民が利用しています。県立淡路病院の建設は津波などの災害の心配が少ない高台で、さらに防災拠点として利用しやすく、全島民のアクセスしやすさがよく考えられた場所にすべきでしょう

#### 兵庫県知事定例記者会見（2011年12月21日）

##### 「兵庫県津波浸水想定区域図（暫定）【播磨・淡路地域】の公表

現行の地域防災計画で想定している津波高を暫定的に2倍程度として作成し、播磨と淡路について津波浸水想定区域図(シミュレーション)の公表をした。

#### 記者会見の質問に対して

[知事は]

津波を防潮門扉と避難路で対応しようとするのが伺える。

実際問題として、防潮門扉の閉鎖訓練などしているので、防潮門扉が閉まらないということはない。想定にしても実際問題として全部が開きっぱなしになっているということはない。

福良と阿万地区は対応が難しい地域です。津波の第一波がくるまでに40分ぐらいあり、避難経路と避難場所をおく必要がある。

逃げるということを基準にどう避難路を整備して逃げる訓練をしていかなければなどというけれど、東日本大震災から10ヶ月も経っているのに、避難路さえ震災後手付かずのまま。真剣に津波対策を考えている知事の発言とは思えない。

**人形会館建設の即時中止を！**  
**県立淡路病院建設の即時中止を！**

(神戸新聞 2012年01月08日)より

### 大阪湾断層帯地震と南海地震の比較



## 大阪湾断層帯で地震 神戸など最短5分で大津波到達

大阪湾を縦断し、神戸空港の真下を走る活断層「大阪湾断層帯」が動いた場合、最悪のケースで地震から約5分後に神戸市と明石市、淡路島東部に南海地震の想定を上回る大津波が押し寄せる可能性を、京都大学防災研究所の鈴木進吾助教（情報学）らが指摘している。今後30年以内の発生確率は0.004%以下と低いが、阪神・淡路大震災級の地震も予想される。鈴木助教は「過去の災害に基づく対応では到底間に合わない。踏み込んだ対策が必要」としている。（安藤文暁）

政府の地震調査研究推進本部によると、大阪湾断層帯は、洲本市沖から神戸・六甲アイランド付近に延び

る四つの活断層の総称で、長さ約39キロ。1990年代に本格調査が始まり、まだ未解明な部分も多く、兵庫県内に最大震度7の揺れが予測されている。

鈴木助教は同本部の数値を基に、最悪のケースを想定した津波シミュレーションを作成。それによると、地震発生の約5分後、神戸市兵庫区～明石市と淡路島東部の沿岸部に最大約4.5メートルの津波が襲来するという。

約15分後には断層の東側を進む波が関西国際空港に、約30分後には大阪府南西部に到達。さらに「反射波」が神戸市東部や西宮市、尼崎市に押し寄せ、1時間後には再び神戸市西部に及ぶという。その後、狭い湾内で逃げ場のなくなった波が、約1時間間隔で同市西部と大阪府南西部の間を行きつ戻りつするとみられる。

神戸市東灘区から堺市付近までを除いた大阪湾沿岸部で、南海地震で想定される津波よりも高くなるという。

現在、国の中央防災会議は南海地震の津波想定の見直しを検討しており、兵庫県は暫定的に津波高を2倍に引き上げて対策を進めている。

鈴木助教は「南海地震では到達までに1時間ほどの余裕があるが、大阪湾断層帯ではわずか5分強。建物の倒壊や液状化などの被害が出ている中で、いかに迅速に避難するのか、考える必要がある」と警鐘を鳴らす。

一方、兵庫県防災計画課は「現状では抜本的な対策は難しい。可能な限り、防潮扉を普段から閉めておくよう呼び掛けたい」としている。

### 【地震の発生確率】

政府の地震調査研究推進本部が公表している。天気予報と違ってサンプル数が少ない地震の最大値は、平均活動間隔が短いほど大きくなる。ただ、小さければ発生しにくいという訳ではなく、阪神・淡路大震災を引き起こした野島断層を含む区間の30年確率は、現在の計算式を当てはめると0.02～8%だった。

## 報告

淡路島振興NPOで「東日本大震災救援、被災地慰問事業」で東北へ行って来ました。

# 津波で一番壊滅的な被害を受けた 女川町

宮城県東部の牡鹿半島にある町で、被災前の人口は約1万人。



震災直後の状況

産業は漁業や水産加工業が中心であり、原子力発電所があることでも有名です。女川町立病院は、海拔16Mの高台に建設されていた。津波前には多くの住民が逃げてきた。



東日本大震災の津波に襲われる前の女川町

津波が町の中心部を襲って、コンクリート製のビルも横倒しになった。町はこれらの建物を、津波被害の研究資料として保存する方針だ。海に近い中心部は特に被害が大きく、4階建ビルなどコンクリート製の建物4棟が地面からはがされ、横倒しになっている。



4階建てビルが横転

兵庫県では、県立淡路病院を海岸から50メートルのところに建てておきます。南あわじ市も人形会館を建築中である。政治家として何も思わぬのだろうか？

女川湾は

**福良湾と同じ地形だ！**

兵庫県の各自自治体のトップや幹部、議員さん方は公費を使って被災地に行っておりです。何度も被災地を視察して、さち防災行政に熱心なように見せていますが、県立淡路病院や淡路人形会館の建設に、何の意見も発しないのは市民としては納得できません。

## 安政年間の記録を理科年表から取り出してみました。

(安政 1 年 6 15) 西暦 1854 年 7 月 9 日

震央・M N34.75° E136.0° M7¼

伊賀・伊勢・大和および隣国：12 日頃から前震があった。上野付近で潰家 2 千余，死約 600，奈良で潰家 400 以上，死 300 余など，全体で死者は 1500 を越える。上野の北方で西南西-東北東方向の断層を生じ，南側の 1km の地域が最大 1.5m 相対的に沈下した。木津川断層の活動であろう。

(安政 1 年 閏 7 5) 西暦 1854 年 8 月 28 日

震央・M N40.6° E141.6° M6.5

陸奥：三戸・八戸で被害。地割れがあった。

(安政 1 年 11 4) 西暦 1854 年 12 月 23 日

震央・M N34.0° E137.8° M8.4

東海・東山・南海諸道：『安政東海地震』：被害は関東から近畿に及び，特に沼津から伊勢湾にかけての海岸がひどかった。津波が房総から土佐までの沿岸を襲い，被害をさらに大きくした。この地震による居宅の潰・焼失は約 3 万軒，死者は 2 千～3 千人と思 われる。沿岸では著しい地殻変動が認められた。地殻変動や津波の解析から，震源域が駿河湾深くまで入り込んでいた可能性が指摘されており，すでに 100 年 以上経過していることから，次の東海地震の発生が心配されている。

(安政 1 年 11 5) 西暦 1854 年 12 月 24 日

震央・M N33.0° E135.0° M8.4

畿内・東海・東山・北陸・南海・山陰・山陽道：『安政南海地震』：東海地震の 32 時間後に発生，近畿付近では二つの地震の被害をはっきりとは区別できない。被害地域は中部から九州に及ぶ。津波が大きく，波高は串本で 15m，久礼で 16m，種崎で 11m など。地震と津波の被害の区別が難しい。死者数千。室戸・紀伊半島は南上がりの傾動を示し，室戸・串本で約 1m 隆起，甲浦・加太で約 1m 沈下した。

(安政 1 年 11 7) 西暦 1854 年 12 月 26 日

震央・M N33¼° E132.0° (M7.3～7.5)

伊予西部・豊後：南海地震の被害と区別が難しい。伊予大洲・吉田で潰家があった。鶴崎で倒れ屋敷 100，土佐でも強く感じた。

(安政 2 年 1 27) 西暦 1855 年 3 月 15 日

遠江・駿河：大井川の堤揺れ込み，焼津で古い割れ目から水が噴出。

(安政 2 年 2 1) 西暦 1855 年 3 月 18 日

震央・M N36.25° E136.9° M6¾

飛騨白川・金沢：野谷村で寺・民家に破損があった。保木脇村で民家 2 軒が山抜けのため潰れ，死 12。金沢城で石垣など破損。

(安政 2 年 7 4) 西暦 1855 年 8 月 16 日

米子：城内で所々崩れ，地割れもあった。

**(安政 2年 83) 西暦 1855年 9月 13日**

震央・M N38.1° E142.0° M7¼

陸前：仙台で屋敷の石垣，堂寺の石塔・灯籠崩れる．山形県・岩手県南部・新潟県分水町・常陸太田で有感．

**(安政 2年 928) 西暦 1855年 11月 7日**

震央・M N34.5° E137.75° (M7~7.5)

遠州灘：前年の東海地震の最大余震．掛塚・下前野・袋井・掛川辺がひどく，ほとんど全滅．死者があった．津波があった．

**(安政 2年 102) 西暦 1855年 11月 11日**

震央・M N35.65° E139.8° M6.9

江戸および付近：『江戸地震』：下町で特に被害が大きかった．地震後 30 余ヶ所から出火，焼失面積は 2.2km におよんだ．江戸町方の被害は，潰れ焼失 1 万 4 千余，死 4 千余．瓦版が多数発行された．

**(安政 3年 723) 西暦 1856年 8月 23日**

震央・M N41.0° E142¼° (M7.5)

日高・胆振・渡島・津軽・南部：震害は少なかったが，津波が三陸及び北海道の南岸を襲った．南部藩で流失 93，潰 106，溺死 26，八戸藩でも死 3 など．余震が多かった．1968 年十勝沖地震に津波の様子がよく似ており，もう少し海溝寄りの地震かもしれない．

**(安政 3年 107) 西暦 1856年 11月 4日**

震央・M N35.7° E139.5° (M6~6.5)

江戸・所沢：江戸で壁の剥落や積瓦の落下があり，傷 23．糸川で家屋倒潰 15 という．

**(安政 4年 閏517) 西暦 1857年 7月 8日**

震央・M N34.4° E131.4° (M6)

萩：城内で石垣などに小被害．市中でも小被害があった．

**(安政 4年 閏523) 西暦 1857年 7月 14日**

震央・M N34.8° E138.2° M6¼

駿河：田中城内で被害．藤枝・静岡で強くゆれ，相良で人家が倒れたという．

**(安政 4年 825) 西暦 1857年 10月 12日**

震央・M N34.0° E132.5° M7¼

伊予・安芸：今治で城内破損，郷町で潰家 3，死 1．宇和島・松山・広島などで被害．郡中で死 4．

**(安政 5年 226) 西暦 1858年 4月 9日**

震央・M N36.4° E137.2° (M7.0~7.1)

飛騨・越中・加賀・越前：飛騨北部・越中で被害が大きく，飛騨で潰家 319，死 203．山崩れも多く，常願寺川の上流が堰止められ，後に決壊して流出および潰家 1600 余，溺死 140 の被害を出した．跡津川断層の運動（右横ずれ）によると考えられる．

**(安政 5年 226) 西暦 1858年 4月 9日**

丹後宮津：地割れを生じ，家屋が大破した．

**(安政 5年 3 10) 1858年 4月 23日**

震央・M                    N36.6° E137.9° M5.7

信濃北西部：大町組で家・蔵が潰れ、山崩れがあった。この地震が引金で、2月26日の地震で堰止められたところが崩れたと考えられる。

**(安政 5年 5 28) 西暦 1858年 7月 8日**

震央・M                    N40.75° E142.0° (M7~7.5)

八戸・三戸：八戸・三戸で土蔵・堤水門・橋など破損。青森・田名部・鱒ヶ沢で強く感じた。

**(安政 5年 7 16) 西暦 1858年 8月 24日**

紀伊：田辺で瓦が落ち、壁が崩れた家があった。

**(安政 5年 8 23) 西暦 1858年 9月 29日**

青森：安方町で米蔵潰れる。狩場沢村（現平内町）で道路に亀裂があった。

**(安政 5年 12 2) 西暦 1859年 1月 5日**

震央・M                    N34.8° E131.9° M6.2

石見：島根県一帯で強く、波佐村で山崩れがあった。周布村・美濃村・下道川村などで被害。

**(安政 5年 12 8) 西暦 1859年 1月 11日**

震央・M                    N35.9° E139.7° (M6)

岩槻：城の本丸櫓・多門その他破損。江戸・佐野・鹿沼で有感。

(安政 6年 9 9) 西暦 1859年 10月 4日

(安政 6年 9 9) 西暦 1859年 10月 4日

震央・M                    N34.5° E132.0° (M6~6.5)

石見：島根県那賀郡で強く、周布村でも潰家や地割れがあった。広島城内でも被害があった。

東海・東南海・南海地震はいつ来るかわかりません。

歴史から地震は連動して起こることが判ります。

東日本大震災によりその可能性があることから、全国の自治体では防災の見直しが行われております。

人形会館や県立淡路病院の建設の基になっているのは、兵庫県津波災害研究会のようです。

それなのに、兵庫県だけが見直さないのは何故なのでしょう？

# インターネット活動

インターネットを革命という人もいます。

人類が産業革命で、人馬や風力という動力から蒸気という動力を手に入れたように、インターネットは双方向の情報通信システムを個人に与えてくれました。

インターネットは、ラジオやテレビなどごく限られた人々に握られていた放送する権利を、一般市民レベルに開放されました。

これからの政治は、この権利を権力で独占したり抑制することは困難となるでしょう。

インターネットは、「支配者階級が握っていた国家権力を被支配者階級が奪い取って、政治や経済の社会構造を根本的に覆す変革」である革命といえるのです。

『まず知ること。考えること。行動すること。それが地域（まち）の力となる。』

掲示板も設置しています。

URL: <http://mawaji-forum-hp.web.infoseek.co.jp/>

メーリングリストによるメッセージの交換もしております。  
(会合の連絡や情報交換に利用します。)

## 「市政を市民の手に取り戻す会」へカンパのお願い

私たちは、普通の市民の声が届く普通の市民のための市政  
を求めて活動をしております。

すべて手弁当の運動で活動資金がありません。

ご協力をお願いします。

銀行名	ゆうちょ銀行
名 義	市民の会
記 号	14320
番 号	27315941